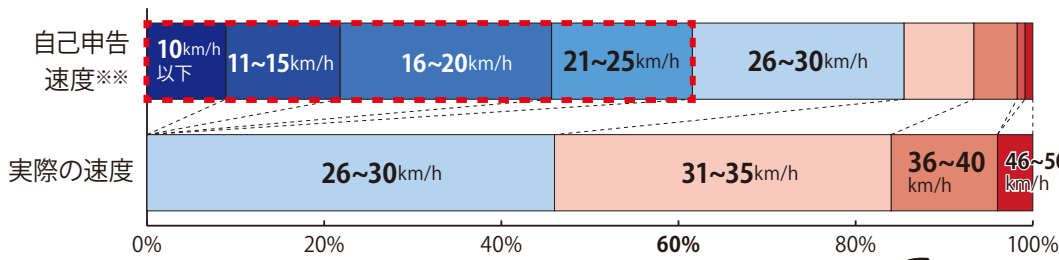


# 5. 走行速度に対する住民意識のコト

## ■対象区間※をどのくらいのスピードで走っていますか？

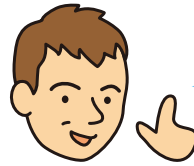


実際の調査では 25km/h 以下で走る車両は観測されませんでした。住宅街の道路では、スピードメーターをあまり気にしないため、ドライバーの速度感覚が大きすぎていことが分かりますね。

※対象区間とは、石塚デンキと玉川保育園の間の道路のことです(右の地図をご覧ください)。

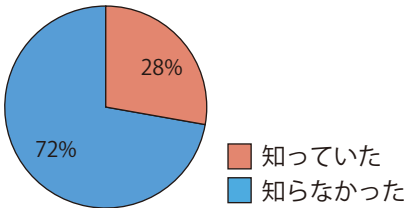
※※ 自己申告速度とは、回答者自身が対象区間をクルマで走るときスピードをアンケートの中で答えてもらったものです。

約 60% の人が「25km/h 以下で走っている」と答えています。



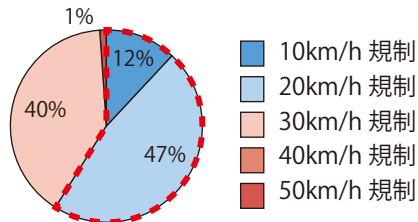
成蹊大学 稲垣助教

## ■対象区間では法定速度(60km/h)で走ってもスピード違反にならないことを知っていますか？

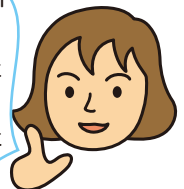


知らなかった人が 3/4 もいたんだね

## ■何km/h 規制にしたら良いと思いますか？



10km/h 規制と 20km/h 規制で半分以上、30km/h 規制を入れるとなんと 99% ! みんなゆっくりが良いと思っているんだね!



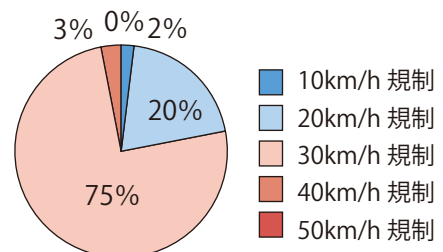
## ● 普段からスピードを出しがちな人は、規制についてどう考えているの？

アンケートの中で「クルマと歩行者が衝突した場合、スピードが 30km/h を超えていると死亡・重傷事故になる確率が急に高くなる」と情報提供したところ、スピードを出しがちな人\*のうち、97% の人が 30km/h 以下の規制速度が望ましいと答えました。

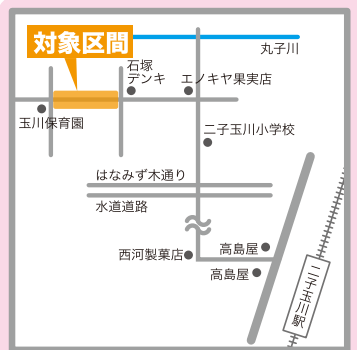
このことから、クルマのスピードの危険性についてより深く知ること、普段からスピードを出しがちな人でも安全意識が高まるのが期待できます。

\* 対象区間を 31km/h 以上で走ると答えた人

## ■ 何 km/h 規制にしたら良いと思いますか？



31km/h 以上で走ると答えた人

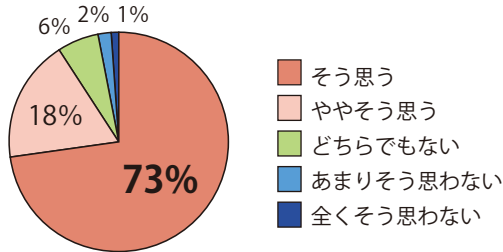


玉川 4 丁目の住宅街でのクルマのスピードについて、住民のみなさんの意識を調査するために「住宅街の交通安全についてのアンケート」を行いました。昨年の 11 月に、玉川 3・4 丁目内の 444 世帯 (計 698 人) の方から回答をもらいました。



成蹊大学 4 年  
根岸さん

## ■ 地区関係者※が率先して スピードを落とすべきですか？

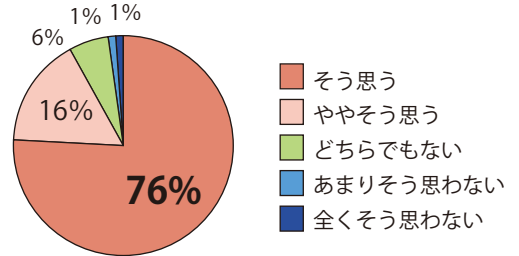


※地区関係者とは玉川 4 丁目にお住まいの人や、用事がある人のことです



玉川に住む多くの人たちがまず率先してゆっくり走ろうと思っているね！

## ■ 今後スピードを落とすようになりませんか？



90% 以上もの人が、これから安全なスピードで運転しようと思ったんだね！

## ● 普段からスピードを出しがちな人は、これからゆっくり走ろうと思っているの？

右上のグラフをみると、「対象区間を 31km/h 以上で走る」と答えた人のうち、98% の人が今後スピードを落とすようになると答えており、安全意識が高まっていることが分かります。

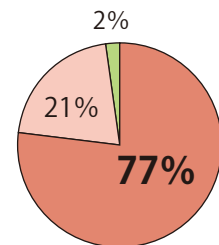
次に「対象区間を 21 ~ 30km/h で走る」と答えた方々に注目してみます。この人たちの中には、スピード感覚のずれのために、実際には 30km/h をオーバーしている人がいると思われるため\*、スピードを意識的に落としてもらうことが重要です。

ここで右下のグラフをみると、「対象区間を 21 ~ 30km/h で走る」と答えた人のうち、88% の人が今後スピードを落とすようになると答えています。

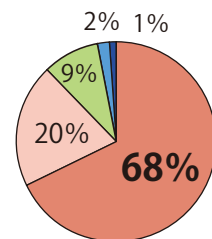
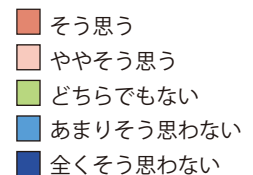
このように、これまでのスピードの感覚にとらわれず、ハンドルを握るときに「まちの中ではもっとゆっくり走ろう！」と思う気持ちが、玉川の住宅街の安全を高めるためにはとても大切です。

\* 実際の速度測定では 25km/h 以下で走る車両が 0% で、31km/h 以上で走る車両が半分以上いました。

### ■ 今後速度を落とすようになりませんか？



31km/h 以上で走ると答えた人



21~30km/h で走ると答えた人

# 6.子どものよく使う道のコト

「よく行く場所・よく使う道アンケート」は、よく行く場所を3つまでと、そこへ行くために使う道路を記入してもらいました。二子玉川小学校のご協力のもと、昨年の10月に4~6年生278人に回答をもらいました。



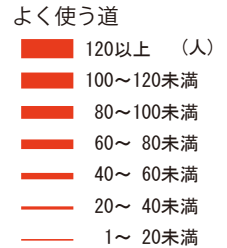
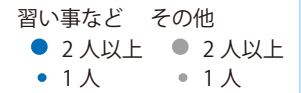
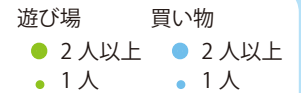
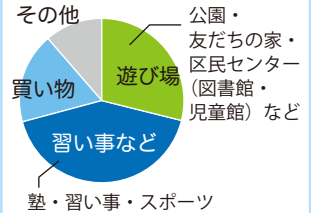
国士館大学  
4年 和島さん

## よく行く場所・よく使う道

※二子玉川小学校は全員が行く場所なので、集計から除いています。



よく行く場所を「遊び場」「習い事など」「買い物」「その他」に分類したところ、習い事などが4割を占めていることがわかりました。



## ヒヤリハットマップとの比較

多くの子どもがよく使う道は、ヒヤリハットの指摘も多く重なります。重点的な対策を検討する場所でしょう。

一方で、子どもがよく使う道ほど、ヒヤリハットの指摘も多いのは当然です。子どもが少ない道でも、ヒヤリハットの指摘があることにも注意。通る人が少ない細い道も含めた、まち全体の安全運転・安全対策も必要です。



国士館大学  
寺内准教授

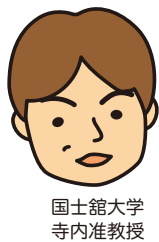


# 7.これからのコト

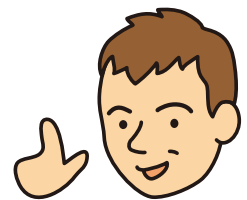
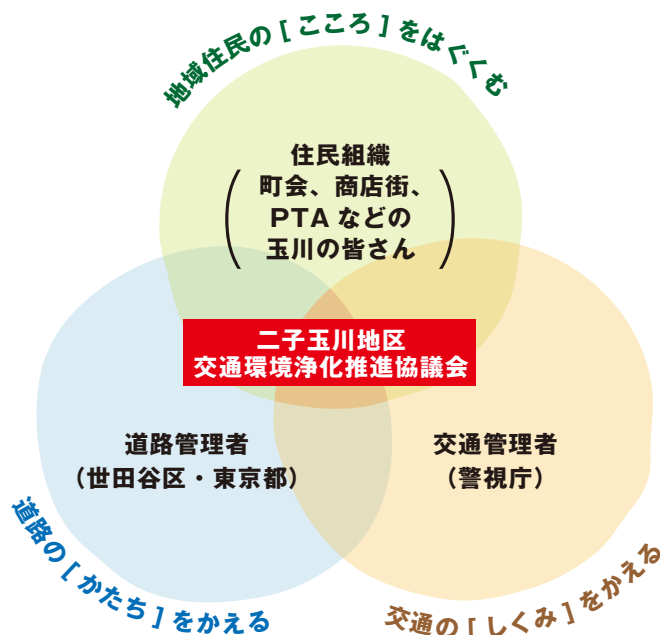
## まち全体の安全を高めるための方法「ゾーン 30」

玉川では、まちの中のいろいろな道をクルマが通り抜け (p.2)、スピードの速いクルマも多くなることが分かりました (p.3)。そして、玉川のほとんどすべての道が子どもによく使われていて (p.9)、まち全体にヒヤリハットがちらばっています (p.5~6)。このような問題には、「まちの中の特に危ない場所に重点的に安全対策をする」ような方法だけでは太刀打ちできません。「まち全体の交通安全」を考えることがとても大切で、そのための対策が全国各地で進められています。

なかでも最近、まちの中のある決められた区域全体を 30km/h 規制にする「ゾーン 30」という新しい考え方があります。速度規制によってまち全体の安全を高めようというものです。玉川ではクルマのスピードが問題 (p.3~4) ですし、速度規制の導入に多くの方に賛同 (p.7~8) いただいているため、まち全体の安全対策の第一歩として「ゾーン 30」を進めていくことが提案できます。



国士舘大学  
寺内准教授



成蹊大学  
稲垣助教

## どうやって進めるの？

クルマのスピードの問題を解決するために、まずは「ゾーン 30」のような速度規制を導入すればよいわけですが、規制を守らない人や気づかない人がいるのも現実です。どうしたらよいのでしょうか？




そのためには、速度規制とセットで、規制した道路をスピードの出しにくいかたちに整備すれば高い効果が得られます。さらにその効果をもっと高めるには、ドライバーに速度を落とす呼びかけをしたらよいでしょう。このように、いろいろな手法を重ねる「合わせ技」が非常に有効なのです。

では、この合わせ技、だれが進めるのでしょうか？速度規制は「警察」の役割、道路の整備は「世田谷区や東京都」の役割です。ドライバーへの呼びかけは、「まちの皆さん」が中心に進めていただくのがよさそうです。合わせ技の実現には、下の図にあるように、二子玉川地区交通環境浄化推進協議会が中心となって関係する皆さんが手を取り合って協力しながら進んでいくことが必要なのです。



これからの玉川の交通をよりよくしていくために、今後ともいっそうまちのみなさんに関心を持っていただき、積極的にご協力、ご参加いただきますようよろしくお願いいたします。



制作：玉川町会  ／ 二子玉川地区交通環境浄化推進協議会  二子玉川商店街振興組合  
監修：国士舘大学寺内義典准教授  成蹊大学稲垣具志助教

ふたこたまご通信 Vol.1～4は、二子玉川100年懇話会のサイト  
(<http://home.c01.itscom.net/ftz/>) でご覧いただけます。